資料４

教室や家庭でのいじめのサイン＜例＞

１　教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教職員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

サ　イ　ン
朝、いつも誰かの机が曲がっている。 教職員がいないと掃除がきちんとできない。 掲示物が破れていたり、落書きがあったりする。 班にすると机と机の間に隙間がある。 グループ分けをすると、特定の児童だけが残る。 特定の子どもに気を遣っている雰囲気がある。 学級やグループの中で絶えず周りの顔色をうかがう児童がいる。 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せつけない雰囲気がある。 些細なことで冷やかしたりするグループがある。 授業中、教職員に見えないように消しゴム投げをしている。 嫌なあだ名が聞こえる。 席替えなどで近くの席になることを嫌がる。 何か起こると特定の生徒の名前が出る。 筆記用具等の貸し借りが多い。

２　家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。児童生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

サ　イ　ン
第1 段階 少し気をつけて観察する いじめられた小中学生の保護者のうち、わが子の被害を知っていたのは３人に１人という調査結果があります。 １　「いってきます」「ただいま」の声に元気がない ２　学校や友だちの話を急にしなくなる ３　持ち物をよくなくす ４　帰宅時に服が汚れている/ 靴型がついている ５　弟、妹やペットなどに乱暴な態度をとる ６　親への反発がひどくなる ７　不自然なけがや持ち物の破損がある ８　お金をよくねだる

9　友だちからたびたび呼び出される
10　頭痛、腹痛を訴え登校をしぶる

第２段階 少し疑いをもって調べる

第 1 段階の10 項目で気になることがあれば、子どもたちが「話さない」のではなく、「話せない」という情況にあることを疑わなければなりません。第2 段階の10 項目について、意識して観察したり、たずねたりしてみましょう。

1　かばんの中に「死ね」「バカ」などの手紙がある
2　家のお金がなくなっている
3　持ち物への落書きがある
4　体（見えない部分）に青あざやマジックなどによるいたずら書きがある
5　けがの原因をはっきりと言わない
6　学校の様子や友だちのことを話したがらなくなる
7　物がなくなる理由を聞いても「分からない」と言う
8　友だちからの電話での対応が暗いなど不自然である
9　食欲がなく、寝言などでうなされることがある
10　成績が急に下がる

第3段階 学校と連絡を取り合って調べる

学級担任がいじめを把握して対応すれば約半数は解決するという結果が出ています。

1　急に友だちが変わる
2　学校と家庭で話す内容に食い違いがある
3　教師への不満を話すが、教師は分かっていないことがある
4　将来のことについて、投げやりなことを言うようになる
5　学校からの報告の内容を聞いてもはっきりと言わない

子どもたちがいじめられているとの発信をしていても、いじめに気づいてくれない親は４人に１人もいるという調査結果があります。教師も親も「見ようとしないものは見えない」といういじめ問題に対する大きな警告でもあります。